

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立土岐商業高等学校

学校番号

48

1 学校教育目標	(1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立します (2) 望ましい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成します (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導を通して、生涯にわたって、創意をはたかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成します
2 現状の分析	○生徒、保護者の皆さんは、学校経営、教育方針に共感し、学習指導、生徒指導、進路指導に概ね良好な評価である ○生徒が安心安全で、落ち着いた学校生活を送ることができています ▲昨年度の入学志願者が定員に満たない状況があります ▲昨年度の就職試験で一部苦戦する状況がありました
3 学校の抱える課題	・特色ある商業教育をさらに推進します ・中学校に向けて、本校の情報が十分に伝わっていない状況があります ・生徒が自らの進路についてチャレンジできるような進路指導を実践します ・基礎的・基本的な学力の向上に向けた家庭学習の定着させます
4 今年度の具体的な重点目標	◇外部連携を含めた3年生課題研究を積極的に遂行し取り組み、各コースのまとめと今後につながる取り組みを実践します ◇見学会や説明会の開催、PR動画の作成を始め、SNS、HP等あらゆる機会を通じて情報発信をおこないます ◇3年生の進路指導は担任だけでなく全職員で関わって進めます

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
1 基礎基本の 力の定着 「確かな学力」 「粘り強さ」	① ICT機器を効果的に活用し授業の実践と生徒理解の向上に努めます	①各教科でのICT活用状況を適宜調査し検証したうえで、生徒アンケートを実施し「ICTを活用した授業内容についての理解度」の肯定的回答が85%以上となることを目標とします	①②ほとんどの授業で普段からICT機器を活用するようになっていきます11月の授業研究週間ではICT機器を利用した授業の見学を行い、参考にして実践する姿が多く見られます 生徒はタブレットの利用をスムーズに行い、教員側もオンライン授業にも慣れてきてトラブルも起きなくなっています 「ICTを活用した学習活動やオンライン等での学習支援などによりそれが学習の理解につながっている」の肯定的回答が73%にとどまっています 10月実施のオンライン学習支援に関するアンケート結果では「理解度」について肯定的回答は59%であり課題を残しました	B	○授業でMetaMoJi、manabaなどの学習支援ソフトの利用度が上がるとともに Microsoft FormsやCisco Webex Meetingなどを校務に活用する事例も見られ、ICTが浸透してきました	B
	②知識・技能の定着のため、適切・継続的に課す課題提示と進捗を確認します。また、必要に応じたオンライン対応により、コロナ禍における個々の能力に応じたケアを実施します	②各教科でのICT活用状況を適宜調査し検証したうえで、生徒アンケートを実施し「ICTを活用した授業内容についての理解度」の肯定的回答が85%以上となることを目標とします	③朝読書は20分を1週間実施しました今年度の貸出冊数は3,043冊であり年々増加しています 作文模試は1・2	C	○生徒はICT機器の利用に慣れ、授業もスムーズに進行できるようになっています ○活字慣れしていない現状において、就職や大学入試の結果に、少なからず読書や作文模試の効果ができていると考えられます ▲授業環境や指導方法も変わりつつある中で、学習の理解度を上げるよう工夫するとともに、個々に対応していかなく	
	③朝読書や天声人語の書き写しを通じて、文章の読解力や語彙力を高めます	③図書館の利用状況や作文模試により評価します	B	▲授業環境や指導方法も変わりつつある中で、学習の理解度を上げるよう工夫するとともに、個々に対応していかなく		

			<p>年生は2回、3年生は1回実施しました 添削をしていただけるので、作文の書き方を学習するには効果的でした 社会問題などに興味関心を持つのに良い機会となりました</p>	<p>てはならないと考えます ▲生徒用タブレットの使用頻度が上がる一方、故障等も増えてきているので備品管理の意識を徹底させたいです</p>																	
<p>2 地域連携の推進と指導内容の充実 「共同・協働」「コミュニケーション」「課題解決力」</p>	<p>①地域資源を活かした、産学官連携を実践します ・地域企業とのクラウドファンディングを利用した資金調達の仕組みの構築 ・Facebook、Instagramの開設により、地域連携ならびに特色ある取り組みを情報発信</p> <p>①クラウドファンディングの調達額、Facebook、Instagramのアクセス解析の状況を評価基準とし達成度を確認する</p>	<p>①取り組みについてアンケートを実施し商業の科目について「興味・関心度が向上した」と回答する生徒が85%以上となることを目標とします</p> <p>①クラウドファンディングの調達額、Facebook、Instagramのアクセス解析の状況を評価基準とし達成度を確認する</p>	<p>①商品開発、課題研究の授業を通して地域連携の取り組みを実施し、地域産業への理解を深め、人と人が繋がるきっかけ作りができました 生徒は異世代の方とのコミュニケーションを通して、興味・関心を持って自発的に活動しました</p> <p>学校のSNSを立ち上げ、地域連携ならびに本校の特色ある取り組みを継続して情報発信しました</p> <p>①クラウドファンディング調達額 2/23現在 達成率 134% 目標金額¥350,000 ▶ ¥469,400 令和3年度生徒及び保護者を対象とするアンケート結果より 保護者・学校運営協議会委員 A+B 32 ▶ 57% 33 ▶ 58% 生徒A+B 31 ▶ 63% 32 ▶ 66% A+B 17 ▶ 29%(全校生徒) 73%(3年生のみ)</p> <p>Instagram インサイトより 11月25日～2月22日 リーチしたアカウント数 1,006 合計フォロワー 196</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢層</th> <th>性別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13～17歳</td> <td>24.3% 男性 47.1%</td> </tr> <tr> <td>18～24歳</td> <td>5.9% 女性 52.8%</td> </tr> <tr> <td>5～34歳</td> <td>11.8%</td> </tr> <tr> <td>35～44歳</td> <td>21.7%</td> </tr> <tr> <td>45～54歳</td> <td>25.6%</td> </tr> <tr> <td>55～64歳</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>3.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・クラウドファンディングは目標金額を4日で達成し、現在は134%の達成率です ・SNSでの情報発信については、ターゲットとしている中学生、保護者世代の</p>	年齢層	性別	13～17歳	24.3% 男性 47.1%	18～24歳	5.9% 女性 52.8%	5～34歳	11.8%	35～44歳	21.7%	45～54歳	25.6%	55～64歳	6.5%	65歳以上	3.9%	<p>A</p> <p>○コロナ禍であったが、地域の魅力を再発見する取り組みが実施できました ○地域の課題を「自分事」として捉えて、自発的に活動に繋がっていかうとする積極的な姿が見られ、高校生の活力を目の当たりにすることができました ○自分たちが一生懸命活動していくにつれ、地元の企業の方や市役所の方、保護者の方など多くの大人が応援や助けていただく機会が増えてきました ○人と人が繋がる瞬間をたくさん経験することで、感謝の気持ちや芽生え、挨拶やお礼を自然と交わせるようになってきました</p> <p>▲地域連携の取り組みも情報発信が実現できましたがアンケートの結果には反映されていません 本校の取り組みを広く周知いただけるよう、発信する情報やタイミングなどを検討して対応していきます ▲中学生のフォロワーについて30%を目標として取り組みます</p> <p>○コロナ禍で、当初は対面販売での実習が困難な状況でしたが、実際にお客様とコミュニケーションをとりながら対面販売ができる機会を得られた</p>	
年齢層	性別																				
13～17歳	24.3% 男性 47.1%																				
18～24歳	5.9% 女性 52.8%																				
5～34歳	11.8%																				
35～44歳	21.7%																				
45～54歳	25.6%																				
55～64歳	6.5%																				
65歳以上	3.9%																				

			<p>フォロワーが上位を占めており、立ち上げ初年度としては目標を達成しています</p>		<p>ことが大きかったです</p> <p>▲オンラインショップでの販売を検討しましたが、今年度は実施を断念しました 超えなければいけないハードルが多いが、実現に向けて再検討していきます</p> <p>○中学生一日体験入学の内容は高評価でした 生徒による授業補助のおかげでスムーズに授業が展開できました</p>
	②地域に根ざした商業教育の実現のため、「土岐商ショップ」やイベント等への協力および出店による活動の場を有効活用します	②取り組みについてアンケートを実施し 商業の科目について「興味・関心度が向上した」と回答する生徒が85%以上となることを目標とします	<p>②「東濃特産品フェア」にて「土岐商ショップ」を出店しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート未実施のため、興味・関心度については不明ですが、「東濃特産品フェア」では、積極的に取り組む生徒の姿が見られました 自分たちで仕入れた商品も完売し、販売実習の目標を達成しています 	A	
	③生徒主体の中学校出前授業や1日体験入学など中学校への働きかけを充実させます	③取り組みについてアンケートを実施し商業の科目について「興味・関心度が向上した」と回答する生徒が85%以上となることを目標とします	<p>③夏休みと秋に中学生一日体験入学、11月28日に高等学校フェアを実施し、美術部生徒が作成した学校PRチラシを配布し、中学校への働きかけを行いました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の中学生一日体験入学後のアンケートでは、学科・コース説明、体験授業ともに高評価でした ・秋の一日体験入学、高等学校フェアともに好評であり、生徒もよく働きかけることができました ・土岐商業のPRについて、市内の中学校長から、生徒の様子や声をもっと伝えてはどうかという意見をいただいています 中学校の先生や保護者が期待する情報提供を行い、一日体験入学や広報活動にもつながりました 	B	<p>○高等学校フェアは初めての企画であったが、多くの中学生が興味を持って話を聞きに来てくれました 本校生徒が積極的に対応する姿を見て、土岐商生の良さを感じました</p> <p>▲一日体験入学の準備にあたり事前打ち合わせが不完全でした</p> <p>▲一日体験入学は、受付から授業の計画、実施まで生徒の手でやらせてみるのもよいPRになると考えています</p>
3 検定試験合格に向けての取り組みの充実と指導者の育成 「チャレンジ精神」「専門性」	①計画的な補習や対策週間を実施し、コースごとに検定対策に関わる指導の強化体制を構築します	①授業アンケートにおいて「検定対策に関わる指導の充実度」が85%以上となることを目標とします	<p>①検定試験に関わる指導に力を入れ、状況に応じて補習や対策習慣を設け指導の充実を図りました</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言による休校時にもオンラインにて補習対応を行いました ・全商協会主催の検定試験において、3年生112名が3種目1級を取得しました ・情報系国家試験、日商簿記検定など上級試験も多数取得しました 	A	<p>○日頃の授業から放課後やオンラインでの補習対応など、細やかな対応ができました</p> <p>▲検定の未取得者に目を向けて個々の能力に応じた対応ができるような手立てを考えていきます</p>
	②自ら努力目標を掲げ、積極的に取り組み成長できる生徒の育成に努めます	②授業アンケートにおいて「検定対策に関わる指導の充実度」が85%以上となることを目標とします	②全商商業経済検定全種目合格者2名	A	

	③各専門コースの柱となる資格取得のバックアップ体制を構築します。また、教員間で情報を共有しコースの特色を生かした授業を実施します	③各コースの柱となる資格の取得率が前年度よりも高い数値になることを目指します	③日商簿記検定に向けてSAHを利用した体制を整えています ・日商簿記検定3級の授業進度計画を立案しました ・日商リテールマーケティング試験のインターネット受験実施しました	A	○日商簿記検定の対応ができるよう生徒・教員に対するサポート体制を整えることができました
4 生徒指導は基本的な生活習慣を確立し、生徒の規範意識の高揚をはかる 「基本的生活習慣」「礼儀」「思いやりの心」	①「遅刻防止」「挨拶」「身だしなみ」に重点を置き、全職員で指導します	①日常におけるマナーについて評価します。外部評価の項目「生徒の礼儀作法やマナー指導が積極的に行われている」の肯定的意見の回答が95%以上を目指しますまた、年間遅刻累計200回以下を目指します	①毎朝の校門等での挨拶運動で気持ちの良い、元気な挨拶が交わせるように学年団の協力のもと実施しましたマナーについては商業教育だけではなく、学校生活のあらゆる面で声掛けし、積極的に指導しました 年間の遅刻累計は大幅に減少しました (132件)	A	○商業の専門高校生としての自覚をもって生活を過ごせる生徒が多い中、若干名の生徒がコロナ禍での生活で自分を見失う生徒がみられましたが、全職員で見守り指導をしっかりとしていくことができました
	②全職員による交通安全指導のみならず、MSリーダーズや生徒会、委員会活動を活用し生徒同士の働きかけによって問題意識を深めます	②交通事故件数ゼロを目指して指導します	②自損事故を含めて昨年より減少傾向にあるが大きな事故につながる事故がゼロになっていないので今後も徹底した指導をしていきたいと考えます	B	▲「自分に限って」とか「大丈夫だろう」という安易な気持ちでの登下校による事故がやはり多いように感じます より徹底をはかり交通事故件数ゼロを目指していきたいと考えています
	③生徒の様子や人間関係の実態を的確につかむとともに保護者と連携して生徒を見守ります	③年2回の「ハイパーQ U」や年3回の教育相談アンケートにより生徒の実態を把握します	③ハイパーQ Uやこころのアンケートなどでアンテナを高くして見守り指導をしました	B	
5 特別活動を通じて所属意識を高め、母校愛を育む 「共同・協働」「コミュニケーション」	①部活動を通して人間形成を行うために、常に目標を定めながら練習に工夫を凝らし技能を高める取組を行います	①各部活が上位入賞を目指します 途中退部者が出ないように良好な人間関係を築き、部活動加入率100%を目指します	①コロナ禍での部活動でしたが顧問を中心に良好な人間関係を築きながら大半の生徒が積極的な活動することができました	B	○いかに限られた時間の中で効率的に展開できるかを顧問が中心となって考え、工夫して活動することができました ▲時代に対応した部活動や行事運営をさらに考えて展開していきたいと考えています
	②委員会活動を活発にするとともに、自主的な活動となるよう支援します	②各行事終了後、アンケート調査により改善点を次に生かします	②数少ない行事の中で生徒会が中心となり、自発的な活動になるように支援しました		
6 進路指導は自己の生き方を考え、主体的に進路を選択し実現することができる能力や態度の育成 「自立・自律」	①望ましい勤労観・職業観を育成します	①インターンシップの自己評価・企業アンケートにより達成度を確認します	①インターンシップは中止とし、マナー講座、キャリアガイダンスを実施しました 生徒の感想からも、自らの進路について考えるきっかけになったことがうかがえました	B	○ビジネスマンとしての心構えや職業意識の高揚が図れました 就職試験の不合格者が昨年より減少しました ▲専門学校指定校推薦について、出願締切前の定員充足による募集打ち切りや出願者の定員超過による倍率発生がおきました 早めの進路決定が
	②学年に応じたキャリア教育を推進し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的な進路選択ができるよう情報提	②感想文を判定基準とします 大学見学会や就職ガイダンスへの参加率100%を目指します	②多治見法人会やハローワークと連携し面接指導、企業学校説明会を実施しました 活動の状況や実績を学校HPに掲載し、本校のアピールにつなげること	B	

「向上心」	共に努めガイダンスの機能を充実させます		ができました		必要な場合もあります
	③「行きたい大学」「就きたい職業」への進路を実現できるような確かな学力や専門的な知識・技能を身に付けるための指導を充実させます	③朝のSHRで実施する一般常識や入社試験対策の小テストの正答率が7割を超えるように指導し、希望進路達成率100%を目指します	③小テストとコラム書き写しの実施により、生徒の学力は着実に向上しています。授業など、学校生活のあらゆる場面でコミュニケーション力を涵養させることを意識しています	B	▲コロナ禍ではあるが、2年生のうちから具体的な希望進路先を意識できるようオープンキャンパスへの早期参加を促したいと考えます

II 学校関係者評価 実施年月日：令和4年3月8日

- ・コロナ禍が長期化し、マスク登校やオンライン授業などが日常的となる中で、学校の職員が人との繋がりも大切にしながら、しっかりとした教育活動に取り組んでいることがよくわかった。また、さまざまな方向から、生徒の育成に取り組んでいると感じた。
- ・地元産業界等と連携し、これからのビジネスで求められる資質、能力を身に付けさせている。
- ・生徒一人一人を把握して学校生活を前向きに取り組んでもらうために、担任に任せるのではなく、すべての職員が生徒に関わって指導していることが伺えた。今後も継続してほしい。
- ・ホームページ更新の頻度をさらにあげ、常に最新の情報（学科の取組内容等）を掲載することで本校のよさを広報してほしい。
- ・インターンシップは、コロナ禍で実施中止はやむを得ながら、落ち着いたら再開してほしい。いただきたい取り組みの一つである。
- ・本校で学んだことは、社会人となった時に活用できるスキルになる。また、進学する生徒も増えており、大学進学を選ぶ生徒のためのカリキュラムは、もう少し充実させてほしい。

12 来年度に向けての改善方策案

- ・「ICTを活用した学習活動やオンライン等での学習支援などにより、それが学習の理解につながっている」ようにするために、さらなる工夫と検証が必要です。
- ・タブレットPCの活用が進んでいる反面、机からの落下による故障、修理が必要になるケースがあります。生徒には、備品は丁寧かつ大切に扱うことを意識させた指導をしていきます。
- ・中学校の先生や保護者が期待する情報提供を行うために、学校WebサイトやSNSの改善を図りながら取り組みます。
- ・学校生活に前向きに取り組める生徒が大半であるがそうでない生徒も若干みられるため、個別指導・個別対応などをできるだけ早い段階から組織で実施していきたいと考えています。
- ・特に専門学校については、AO入試での出願を視野に入れ、夏休み前には希望先を決定させたい。四大の総合型選抜も合格が難しくなっており対策を考えていきます。
- ・日常の挨拶や会話を通してコミュニケーション力を育成し、目標の進路達成につなげます。
- ・来年度より採用するスタディサプリについて、テストと連動課題配信の有用性について検討します。